

北山谿太^{けいた}の企画展を開催

現在、地域交流センター（ALEC）において、企画展「北山谿太 源氏物語に魅せられて」を9月25日（水）まで開催しています。

北山谿太（1886～1966年）は、有田町市場に生まれ、その生涯を源氏物語の研究にささげた人物です。難解な源氏物語の辞典作りを一人で成し遂げるなど到底不可能と考えられていた時代にあつて、源氏物語を独学で研究し、日本で初めて「源氏物語辞典」を完成させるという偉業を成し遂げた有田川町が誇る郷土の偉人です。以降では、その生涯を簡単にご紹介します。

北山谿太は、師範学校を卒業後、教師の道に進みます。35歳のころから源氏物語を読み始めていますが、読み進むにつれて、いまだ誰もなし得なかった源氏物語の辞典を作ることに夢を膨らませるようになっていきます。源氏物語辞典編纂^{へんさん}の決意を固めた谿太は、47歳で教師を辞め、本格的に辞典の編纂に着手しました。その作業は、1ページを読むごとに、一語一句、単語カードを作成して進められました。作成された単語カードの総数は、およそ1万4千枚にも及んでいます。

独学で研究に没頭し、作業を進めること11年、ついに源氏物語辞典の原稿が完成し、昭和17年（1942年）富山房^{ふざんぼう}が出版を引き受けることになりました。しかし、戦時中の極度の物資不足によって出版は無期延期になってしまいました。出版のめどを断たれ、焦心した谿太ですが、新村出博士^{しんむらいたけし}（「広辞苑」の編者）宅の客間に掛けられた「桃栗三年柿八年」の書に感銘を受け、時が至るのを待つ他はないとの思いで、出版に向け、辞典の編纂を続けました。

昭和30年（1955年）、ついに平凡社が源氏物語辞典の出版を引き受け、2年後の昭和32年（1957年）、谿太72歳の時に日本で最初の源氏物語辞典が出版されるという偉業が成し遂げられました。

企画展では、北山谿太直筆の原稿や単語カードなど関連資料の展示を通して、その生涯や業績を紹介しています。ご来館の際はご覧ください。



北山谿太（昭和17年（1942年）撮影）

広報ありだがわに關するおわびと訂正
8月号の当コーナーで、「興禪寺」と記載しましたが、正しくは「興善寺」です。
ここに訂正し、おわび申し上げます。